

平成29年度 倉吉東高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

倉吉東高校は、中長期目標として『倉吉東高校のかたち』の理想に沿ったさまざまな教育活動を充実発展させるとともに、主体的な学習者・21世紀の日本を支え、世界をリードする高い志を持った人材の育成をめざす」を掲げ、全教職員が協力しながら教育活動に取り組んでいる。学校長のリーダーシップのもとで、重点目標である「主体的学習者の育成」「キャリア教育の充実」「積極的な活動の創成」「国際理解教育の充実と図書館の知のセンター化」「定時制教育の充実」に対し、教職員が分掌ごとに役割を担い、熱心に教育活動に取り組んでいる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 「主体的学習者の育成」を目指し、生徒の学習意欲を高める授業を多くの教職員が実践しており、大変評価できる。授業運営に関して半期ごとに点検・改善が行われ、PDCAサイクルが継続的に行われている。生徒の学力・習熟度別指導が徹底され、個に応じた教育が行われている。定時制においては教職員が日々、生徒の変化や成長を把握・共有しており、今後も継続を望む。
- ② 「国際高校生フォーラム」「グローバル人材育成事業」「国際理解教育」等、多様な価値観に対応できるグローバル人材育成に資する取組が豊富で、独自プログラムが展開されている。
- ③ 3年間かけて生徒の進路意識を高め、進路実現させている。中部地区だけではなく鳥取県をリードする進学校として、生徒、保護者、中学校、地域住民等の期待に応える進学実績を挙げている。定時制においては、職場や家庭への訪問を通じ学校外での生徒の状況も把握している。
- ④ ほぼ生徒全員が部活動に所属し、文武両道を実践しながら、活発に活動している。
- ⑤ 保護者が、PTA活動をはじめとした学校の諸活動に極めて協力的である。学校による情報発信に対して保護者の関心が高く、高い信頼関係が構築されている。
- ⑥ 学校長をはじめとする管理職が、教育目標を教職員と共有し相互に意見を交わしながら、組織的に運営している。現状に甘んじることなく次の課題を捉えながら、常に先々を見据えた取組が行われている。分掌や主任制が機能し、教職員が協働して教育活動に取り組んでいる。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 「グローバル人材育成事業」は地域に対する愛着や誇りを育む素晴らしい事業であるが、一部クラスでの取組であり、活動が学校全体へ拡大していくことを期待する。世界や日本のみならず、出身地であるこの鳥取県、そして中部地区の発展に貢献する意識が育まれることを望む。
- ② 時間外勤務時間の削減に多くの教職員が取り組んでいるが、大幅な超過の教職員が一部存在する。原因が特定できているため、改善に向けた取組が行われることを望む。
- ③ コンプライアンスチェックの結果によると、個人情報取り扱いならびにその保護に対する意識が低い教職員が一部存在する。日々の仕事の中で、リスク管理の意識向上を望む。
- ④ 不登校の生徒や配慮対応の判断が難しい生徒等、多様化する生徒への対応が求められており、支援の在り方に関する一層の工夫・改善を期待する。
- ⑤ 定時制では充実した教育が行われているものの、生徒が図書館を事実上利用できないため、学校司書の勤務時間や人員の在り方を見直し、状況の改善を望む。
- ⑥ 一部の教室においては使用期限が過ぎた机・椅子、敷地内通路では整備不十分な箇所が存在していたため、状況の改善を望む。